



障害者施設を紹介します

埼玉県社会福祉事業団 皆光園

社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団が運営する障害者支援施設「皆光園」は、昭和51年の開所以降、県委託事業として聴覚に障害のあるお子さんを対象とした聴覚訓練事業を行ってまいりました。

そして、長年培ってきたノウハウと専門性を生かし、さらに充実した安定的なサービスを提供するため、1月に皆光園内に児童発達支援センターを開設しました。

児童発達支援センターでは、個別療育、グループ療育を中心に、季節の体験を行う行事や保護者勉強会などを実施しています。個々の発達に合わせた支援や近い年齢の友達との活動の中で、楽しみながら聴覚や言葉の発達を促し、コミュニケーション力を高めていきます。支援センターは親子で通園するので、保護者同士の交流・情報交換も行うことができます。

お子さんに関する相談など、随時受け付けています。また、通園をご希望のかたはぜひ一度ご見学ください。



▲児童発達支援センター皆光園の活動の様子

〒埼玉県社会福祉事業団 皆光園 ☎573 - 2021、障害福祉課 ☎571 - 1011、FAX574 - 6667

Fukaya City Schools Creating the Future

未来をつくる 深谷の進学先



自分が変わる物語が始まる 埼玉工業大学

学校の概要・特色

- 新しい技術を、社会や私たちの生活に役立つ形へ発展させる大学
- 自動運転やクリーンエネルギーなど、未来を支える最先端分野を研究
- 教職員の手厚いサポートで、大手・有名企業への就職を実現

学部・学科

- **工学部** 機械工学科・生命環境化学科・情報システム学科
- **人間社会学部** 情報社会学科・心理学科

主な就職実績

トヨタ自動車、本田技研工業、JR東日本、JR東海、東急電鉄、三菱ケミカル、損害保険ジャパン、太陽誘電ほか
※令和7年度卒業生就職実績

研究トピック

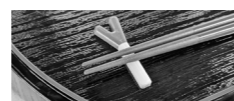
ほんの少し先の未来を創造。近未来の社会に役立つ技術開発

運転士不足や交通事故などの課題解決に向けて自動運転技術を研究しています。平成31年には専門センターを設置し、その成果を生かして深谷市のコミュニティバスの自動運転化に協力しています。大学の技術が、地域の人々の移動を支えています。



地域の特徴から新たな価値とブランドの創成

生命環境化学科と機械工学科が協力し、出荷時に捨てられる深谷ねぎの葉から、環境にやさしいバイオプラスチックを開発しました。この研究を通して、プラスチックごみの削減や循環型社会の実現に貢献しています。



▲バイオプラスチックの箸置き

さまざまな店舗の問題解決や商品企画への取り組み

深谷商店街連合会と連携し、学生が大学で学んだ知識やアイデアを商店街で実践しています。売り上げ向上の企画や新商品・メニュー開発を通して、ビジネスの楽しさや難しさを学べる、深谷市全体をフィールドにした学びを行っています。



学校法人智香寺学園 埼玉工業大学

住所 〒369-0293
普濟寺1690
電話 585-2521



▲問い合わせ
フォーム



▲大学ホーム
ページ



第2話 潮入りの池



立志と忠恕の後継者

敬三物語

洪沢敬三は、明治29(1896)年に、父・篤二、母・敦子の長男として東京深川(現在の東京都江東区)に生まれました。生家は永代橋近くの大島川という川に面した大きな家で、今は瀬澤倉庫という会社が所在していますが、当時は、門を入ると蔵がずらりと立ち並んでいて、その奥に玄関がありました。その家には大きな池があって、東京湾北側の内湾につながっていたため、潮の満ち引きがあり、「潮入りの池」と呼ばれていました。池の水は塩分が含まれていて、ウナギやフナ、コイなどのさまざまな魚や小動物が居ました。敬三は、幼い頃からこの



▲子どもの頃の敬三(『柏葉拾遺』(柏窓会1956年)所収)

池のそばに座って魚などをずつと眺めていて、一度、滑り落ちて危うく死にかけたそうです。この潮入りの池は、少年敬三にとって、自分の家に造られた「水族館」でした。中学生になると敬三は、「金魚の音に関する知覚の観察」「蛙四種について」などの論文を書いて友人に見せていました。潮入りの池での小動物観察を契機に、敬三の観察眼は、単なる観察から、問題意識を持つ観察するものとなりました。さらに、成長とともに、問題意識を持つて得られた情報を検討するように変化していきました。この経験は、後の生物学や、民俗学に役立ったばかりでなく、銀行の仕事でも、資料を観察し、分析して社会の動向を捉えるという姿勢につながりました。